

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	三次市立三和小学校		
学校長氏名	飯田 直美	栄養教諭氏名	(加藤 彩加) 沖田 満
職員数	17名	児童・生徒数	88名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

食器の並べ方、箸のもち方等の食事のマナーについて指導を行ってきたが実践に結びついていない児童もいる。また、箸の持ち方等を理解していても、それを実践できる児童の割合はさらに低い状況である。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・ 基本的な生活習慣を確立し、健康で安全な生活を作る。
- ・ 生活チェック表で朝食摂取状況に係る項目の達成率が80%以上。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組

(1) 給食時間における食に関する指導

本校の食育年間指導計画に基づき、毎月各教室で食育目標にそった指導を行った。児童が給食を食べながら理解できるような教材を用い、一目見て分かりやすい指導となるよう努めた。



給食指導の様子（朝ごはんについて）

(2) 授業時間における食に関する指導

学級担任がT1となり、主に授業をすすめ、栄養教諭が専門性を生かしてT2として授業に入った。

【特別活動】

1年 「給食ありがとう」「噛むことの大切さ」

2年 「噛むことの大切さ」

3年 「特産物の豆腐をつくろう」

特別支援学級 「手をしっかり洗おう」「健塩について知ろう」

「バランスの良い食事について知ろう」



特別支援学級「健塩について知ろう」

【家庭科】

5年 「始めてみようクッキング」

6年 「朝食を考えよう」「ご飯とみそ汁に合うおかずを考えよう」

【国語科】

3年 「すがたを変える大豆」



3年「特産物の豆腐をつくろう」

【取組2】（テーマ） 地域・家庭への発信

(1) 1年生保護者を対象にした給食試食会

給食についての説明や給食の減塩のあり方についての説明を行い、学校での食育について保護者へ周知した。

(2) みよしふるさとランチ

三次市では、地元の豊富な農産物を活用した地産地消の推進を図るため、年3回の「みよしふるさとランチの日」を定めている。三次市内の保育所や学校給食調理場の全調理場で、三次産の統一食材を使った給食を提供している。これは、給食を通じてバランスの良い食事や旬の食材、郷土料理について考え、食育や地産地消をより身近に感じてもらうための取組である。給食だよりも「みよしふるさとランチの日」

について紹介し、広く保護者に伝えている。三次市健康推進課では「ふるさとランチの日」をアピールする幟旗を作成し、前後約1週間の期間はその幟旗を児童玄関に掲げ、地域に向けて「みよしふるさとランチの日」を発信している。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 校内での取組

- ① 給食だよりや給食放送で「ひろしま給食」メニューの紹介を行った。
- ② 食育掲示板に「ひろしま給食」ポスターを掲示した。
- ③ 県内統一メニューの「熱く燃えろ！！Cスープ」、三次の郷土食であるわにを使った「わにみそカツ」「ごま和え」の3つのメニューを三次市統一献立として提供した。

(2) 校外での取組

- ① 夏休みに、市内の栄養教諭・栄養職員とJA女性部が行う調理講習会で「ひろしま給食」や地場産物を活用したメニューの調理実習を行った。この講習会では、三次市の統一副菜の決定のための試作の他、JA女性部の方にも「ひろしま給食」を知ってもらう良い機会となっている。
- ② 夏休みに、三次市内の小学生とその保護者を対象に市内の栄養教諭・栄養職員で親子クッキング教室を開催した。

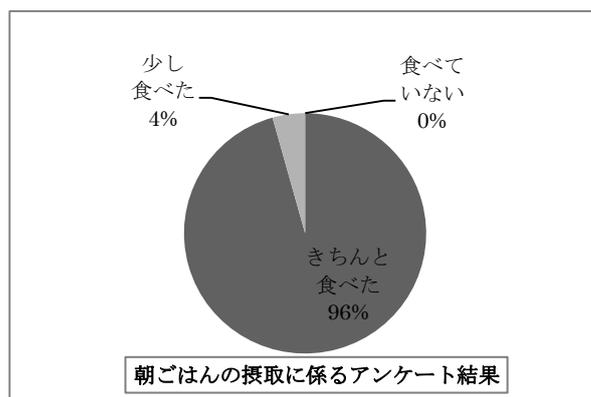
5 取組に対する成果と課題

【成果】

給食時間における箸の持ち方は、指導により正しく持てる児童が増加した。朝食摂取の割合についてのアンケートを行ったところ、朝ごはんを食べた割合は目標の80%を上回る96%を達成し、欠食をしている児童は0%であった。

【課題】

食器を正しく持てない児童がいるため、食事のマナーは継続的な指導が必要である。また、給食準備が速やかにできない学年がある。朝ごはんをきちんと食べた、もしくは少し食べたと回答した児童の食事内容が分からないため、質の良い朝食が取れているかの把握が不十分である。



6 今後の取組に向けた改善方策について

食事のマナー等の必要性や正しい食事の姿勢等について、給食時間を中心に指導していく。さらにマナーよく食べている児童に対しては表彰を行い、児童自身だけでなく他の児童にもマナーよく食べようという意欲をもたせる。

朝食摂取のアンケート調査で「きちんと食べた」と回答した児童の朝食内容について把握し、必要に応じて指導していく。

自校において、食に関する年間指導計画にそって計画的に授業に入ることができるよう、積極的に学級担任と連携をとる。他校の指導においても、食育推進年間計画にそって連携をとり、計画的に指導を行っていく。

自校からも「ひろしま給食」の応募が増えるよう、ひろしま給食啓発の取組を充実させる。